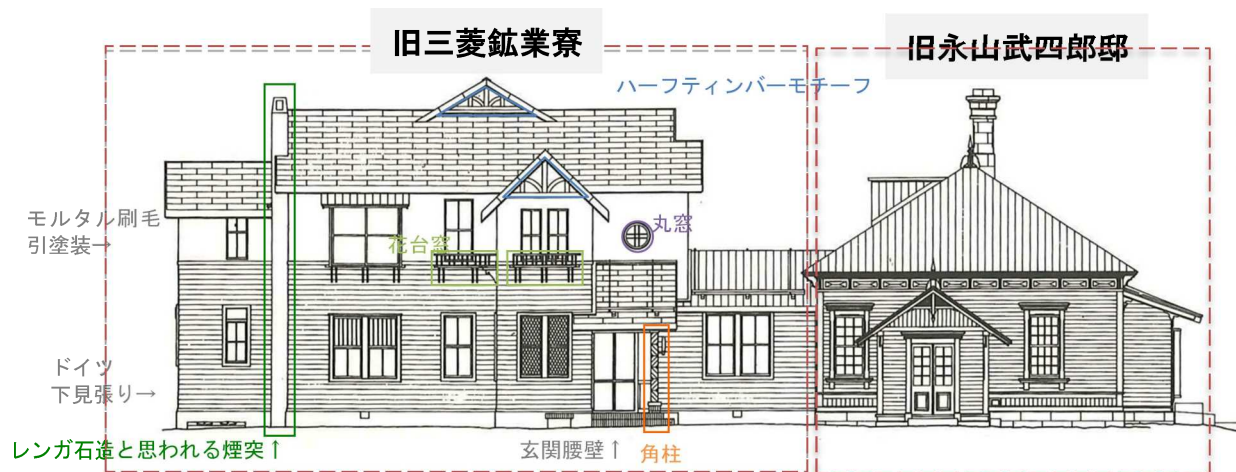


2 現状と価値

(1) 沿革



図面出展：よみがえった永山邸 屯田兵の父・永山武四郎の実像（旧永山武四郎邸調査報告書/旧永山邸建物調査団）

▼明治 10（1877）年代前半

永山武四郎が屯田事務局長時代に私邸として建設。

▼明治 37（1904）年

永山武四郎逝去。

▼明治 44（1911）年

三菱合資会社が炭鉱開発の調査本部とするため、永山邸の土地・建物を一括買収。その後、三菱鉱業セメント（株）が所有。

▼大正 2（1913）年

道路用地として約 313 坪の土地を札幌市に寄贈。

▼昭和 12（1937）年頃

三菱鉱業セメント（株）が三菱鉱業寮部分を増築。

▼昭和 60（1985）年

三菱鉱業セメント（株）から札幌市が敷地を取得。両施設は札幌市に寄贈。周辺環境の整備、邸宅の修復工事開始。

▼昭和 62（1987）年

旧永山武四郎邸を北海道有形文化財に指定。

▼平成 2（1990）年

永山記念公園設立。

▼平成 18（2006）年

旧永山武四郎邸の保全改修・可能な範囲の復原を実施。



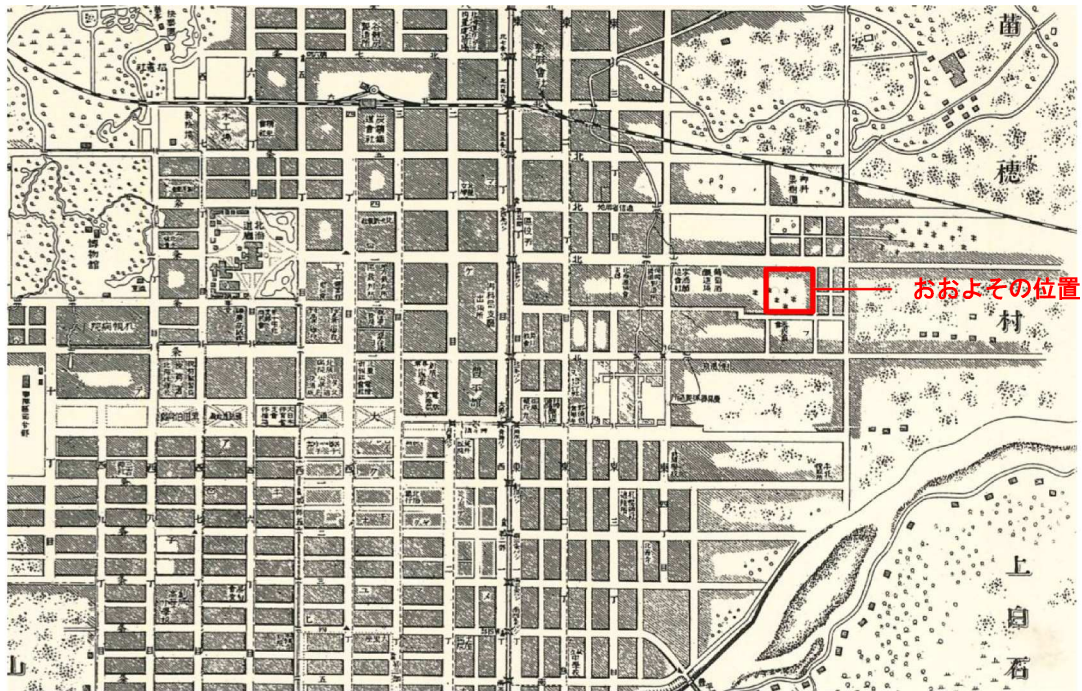
永山武四郎



旧三菱鉱業寮（左）と旧永山武四郎邸（右）

永山邸が建設された当時（明治10年代前半）、周辺には、北海道の開拓の中心となる屯田兵指令部や工業製作所、敷地の西側には、永山邸に隣接して札幌葡萄酒醸造所、札幌麦酒醸造場が並んでいました。

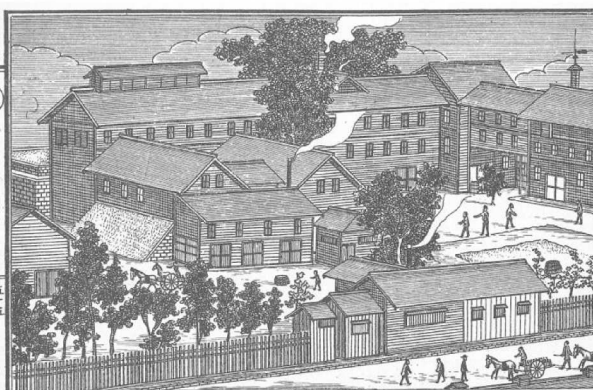
これらの敷地には、創成川から貯水池に引き込まれた後、北に向かう流れが通っており、北側には御料果樹園が開けていました。（明治36年札幌市街之図より/出典：さっぽろ文庫別冊）



（永山武四郎邸/札幌繁栄図録 明治20年より）

（札幌葡萄酒醸造所/札幌繁栄図録 明治20年より）

・現在の旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮の正門位置、およびここからの旧永山邸玄関へのアプローチは「札幌繁栄図録」に描かれた創建時の姿をほぼ踏襲しています。



（札幌麦酒醸造場/札幌繁栄図録 明治20年より）

(2) 旧永山武四郎邸

■概要

所在地：中央区北2条東6丁目2番地
建築年：明治10(1877)年代前半：洋風様式の移入期
構造：木造平屋
床面積：136.06 m²
指定等：北海道指定有形文化財
建築者：永山武四郎(1837～1904) - 第二代北海道庁
長官、屯田兵司令官、第七師団長を歴任

■歴史的価値

明治前半期の北海道の上流住宅の好例であり、日本近代住宅史を考える上で高い価値を有しています。
三菱合資会社買収後は、重役専用の宿泊や執務用施設として使われました。

■建築的価値

重厚かつ簡素な意匠で、開拓使が手がけた和洋住宅様式の特徴をよく伝えています。
応接室内部の壁は大壁で、天井とともに漆喰仕上げ、天井の中心飾りなどは豊平館や清華亭と酷似しています。
札幌繁栄図録によると、敷地は木製の塀で囲まれており、北側及び東側には現在は存在しないかなり大きい平屋の従棟が接続されていたことが示されています。



洋風意匠の西正面



トイレの戸の透かし彫り

<外部>

- ・西正面：洋風意匠
- ・玄関の基礎のみ和風
- ・基壇：札幌軟石
- ・矛型の棟飾り*1

<内部>

- ・永山武四郎の接客および居所空間
- ・部屋の出入口額縁の洋風装飾は表裏異なったデザイン
- ・装飾を境に書院座敷と洋風応接室が接続
→開口に引き込み戸*2が使われている
→当時、洋室は別棟や廊下を挟んで造られるのが一般的
→細部に開拓使が手掛けた和洋住宅様式の特徴を伝えている
- ・座敷の床はより高く、天井は低くなっている
→住宅史上、過渡期の和洋混成として重要な価値
- ・畳の書院座敷：棹縁天井板*3はケヤキ、柱や長押にタモ、鴨居*4にカバ・カツラ、敷居*5にエンジュなどの道産材を使用
- ・北側の和風住居：家族や使用人の居住空間
- ・構成：庭園に面する縁側付き書院と洋間の結合、洋間額縁を座敷側*6に表す

*1 屋根の棟に取り付けた装飾。

*2 戸を壁の中に引き込むことのできる引戸。

*3 天井板を竿と称する部材で押さえて天井を張る方法。

*4 襖や障子など引戸を設ける開口部の上部に設ける溝を設けた部材。

*5 開口部の下方に取り付けられた横木。

*6 窓や出入口の枠に取り付ける壁との見切材。

(3) 旧三菱鉱業寮

■概要

所在地：中央区北2条東6丁目2番地
建築年：昭和12(1937)年頃
構造：木造2階建て
床面積：524.7㎡
指定等：未指定

■歴史的価値

三菱鉱業株式会社は、三菱合資会社の炭鉱部、鉱山部、研究所が独立し、大正7年に設立され、炭鉱経営、金属鉱業を本業とし、他に採掘した石炭を輸送するための地方鉄道事業も行っていました。当時、この環境下で労働力の獲得や維持を図るために、福利厚生施設の整備は欠くことのできない重要事項でした。具体的には、社宅などの居住施設の貸与、クラブ、会館、集会所、娯楽場、その他従業員の生活分野全般に及んでおり、旧三菱鉱業寮もこの福利厚生の一環で建設されたと推測されます。このような民間企業保有のクラブハウスが現存する例は道内に少なく、高い産業・文化史的価値を有しています。

■建築的価値

筋違いのハーフティンバー・モチーフ*7、丸窓、1階及び2階窓台までをドイツ下見張り*8、その上をモルタル刷毛引塗装仕上げ*9の小壁として腰の高いデザインなど大正昭和初期のモダンな洋館のデザイン傾向を表しています。

宿泊室、従業員室、電話室、応接間等、倶楽部としての間取り・空間構成となっています。



正面



内観

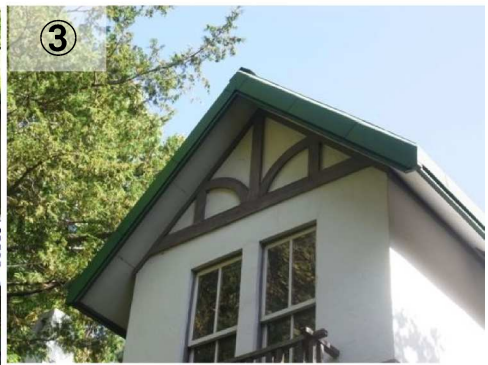
<外部>



①



②



③



④



⑤



⑥

- ①昭和初期のモダンな洋館
- ②玄関のなぐり仕上げの角柱、玄関腰壁
- ③各棟の破風面に飾られた化粧柱、筋違いのハーフティンバーモチーフ*7
- ④1階及び2階窓台までドイツ下見張り*8、その上がモルタル刷毛引塗装仕上げ*9
- ⑤便所などの副次翼屋*10
- ⑥昭和初期の建築に比較的多く見られる花台窓

<内部>



- ① 寮であった背景が見られる電話室
- ② 通用口から廊下にアプローチ出来るようになっている
- ③ 特徴的な応接間
- ④ 気持ちの良い縁側空間
- ⑤ 裏手のサービス階段
- ⑥ 特徴的な階段親柱のデザインと階段室まわり
- ⑦ 文化史的意味を持つトイレの掃き出し窓
- ⑧ 大正、昭和初期の洋風住宅にしばしば見られる丸窓
- ⑨ 寒冷地仕様の二重窓

*7 柱や窓台等の軸組を隠さず、その間を漆喰や煉瓦、石などで仕上げた、西洋木造建築の一手法。
 *8 下見板の重ね目をかき取り、筋目を通すように張って仕上げる外壁仕上げの一つ。
 *9 上塗り用のモルタルを塗り付けた後、表面が柔らかいうちに刷毛ではけ目をつけて仕上げる工法。
 *10 翼のように飛び出した形で、主屋に対して付加された建築部分。

(4) 敷地

■概要

用途地域種別：近隣商業地域
都市公園設置年月日：平成2年3月31日
名称：永山記念公園
所在地：中央区北2条東6丁目
総面積：12,496.92㎡

■庭園

当時の庭園は、周囲の民家から見えなように垣根代わりとしてオンコが植樹されていました。
常緑樹を枠組みとした地割り等の手法から、本州あるいは九州での作庭経験のある庭師によって手がけられたと推測されています。

■樹種

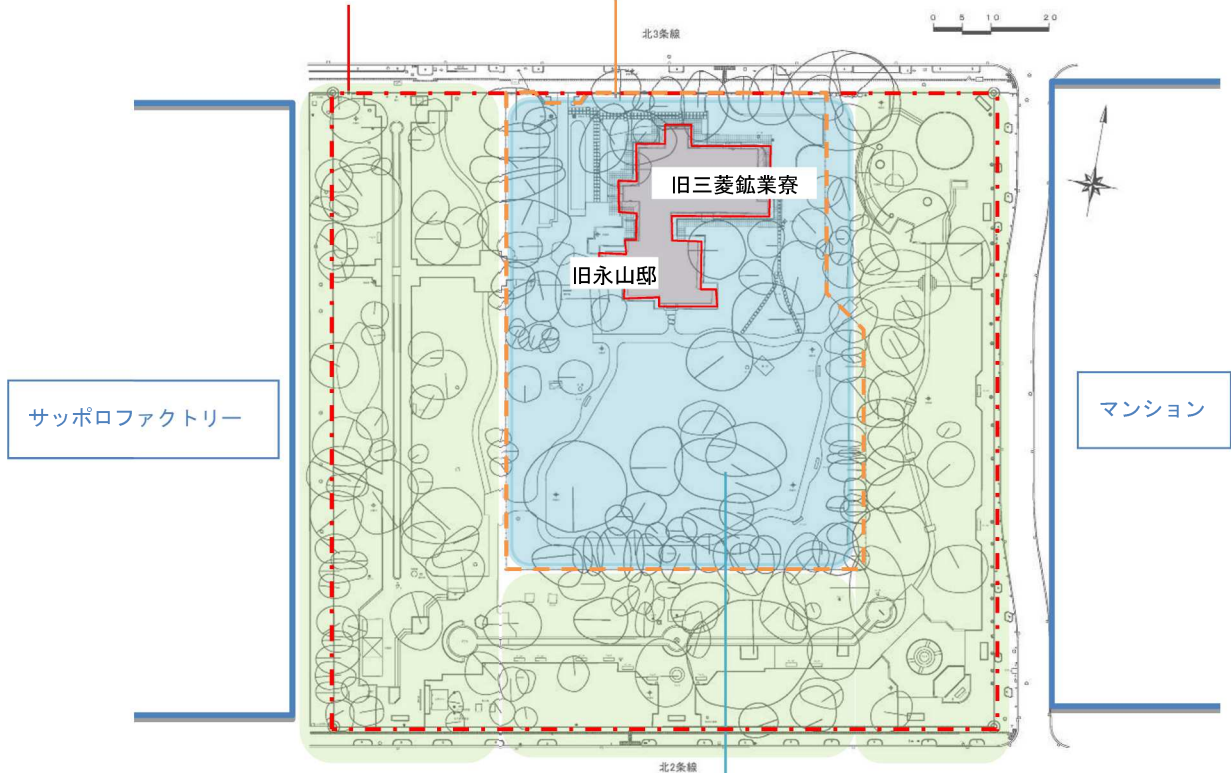
永山邸が位置する柵内の敷地にある樹木は、昭和63年の公園建設当時に新たに植えられたものはごくわずかで、三菱鉱業時代からの庭が保存されています。



永山記念公園現況図

敷地境界（永山記念公園）：公園管理

フェンス



サッポロファクトリー

マンション

三菱鉱業セメント（株）所有時代からの庭園が保存されている

(5) 運営管理の状況

ア 運営形態

建物：旧永山武四郎邸・旧三菱鉱業寮（札幌市観光文化局文化部が管理）

敷地：永山記念公園（都市公園として札幌市中央区土木部が管理）

施設の入館料・使用料：無料

イ 公開状況・入館者数・活用状況

<公開状況>

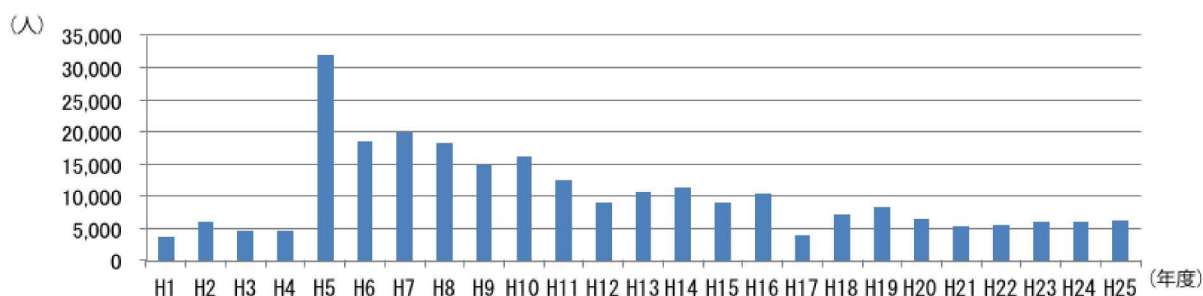
平成元年度より一般公開を開始

開館時間 9：00～16：00（年末年始は休館）

<来館者数推移>

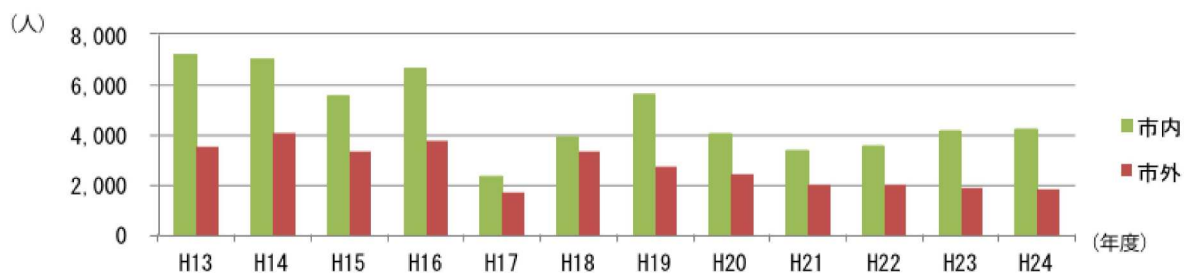
サッポロファクトリー開業の平成5年度には約3万2千人の来館がありましたが、その後減少を続け、近年は横ばいとなっています。平成25年度は6千人強となっています。

全体



市内・市外別

※市外：道内・道外・海外客



※平成17年9月～平成18年4月の期間は改修工事のため一般公開中止。

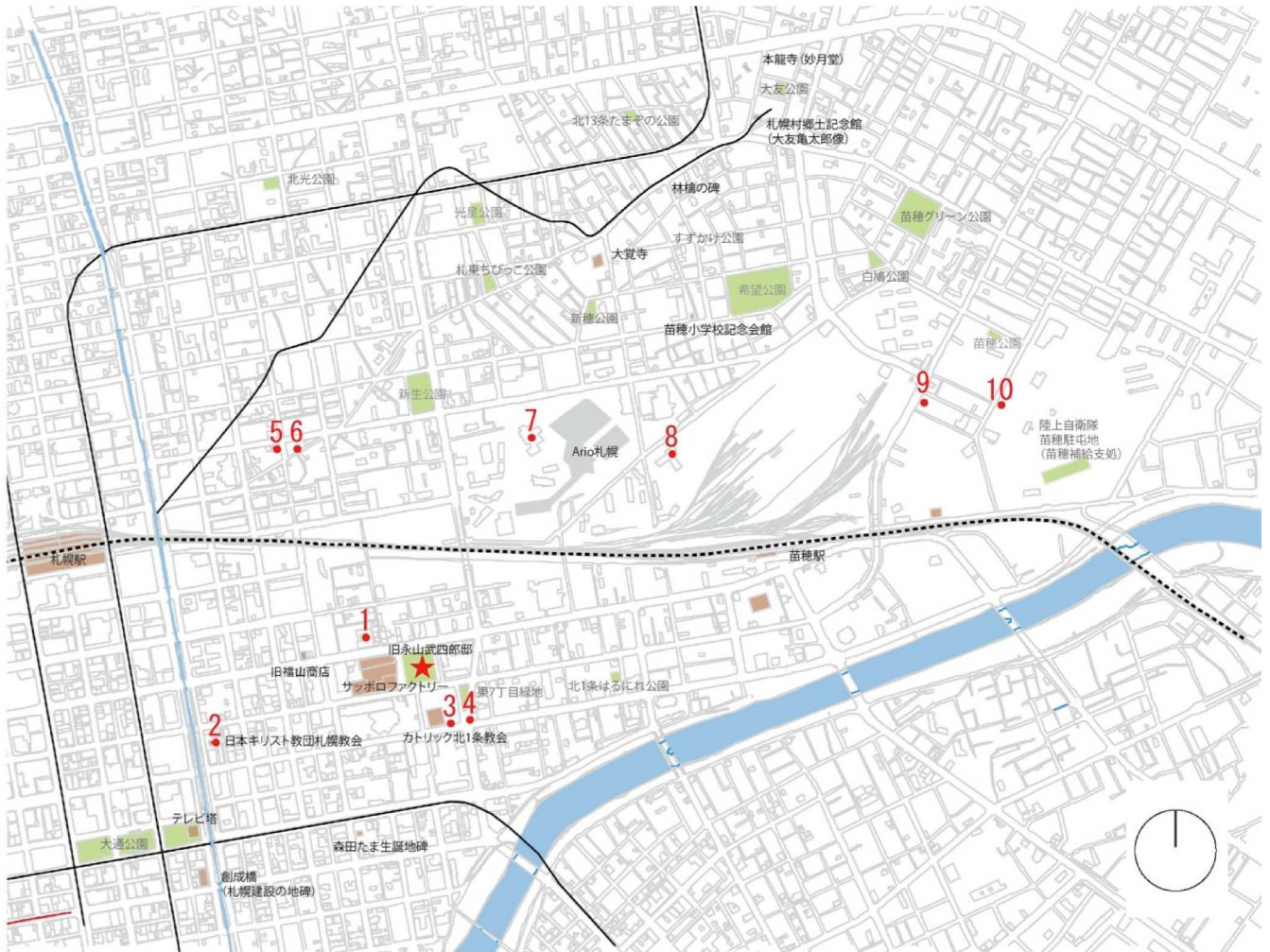
<一般観覧以外の活用状況>

- ・雑誌取材や撮影等で年間204件（25年度）の利用があります。
- ・利用内容は、約8割強が婚礼等の撮影で、年々増加傾向にあります。



旧永山邸での婚礼写真：札幌ロケーションフォト・ウエディング協議会提供

(6) 周辺の歴史的資産



1. 岩佐ビル



札幌景観資産

建築年：昭和 25(1950)年 鉄筋コンクリート造

戦後復興期にラムネ工場として建設され、工場の役割を終えた後はテナントビルとして使われました。増築を経て現在は札幌では珍しい中庭を持つ口の字型ビルになりました。工場として建てられたため天井が高いことや鉄筋コンクリート造の明快なデザインが特徴です。現在1階は飲食店、ショップ、演劇専用小劇場などが入居しています。

2. 日本基督教団札幌教会礼拝堂



札幌景観資産 / 国登録有形文化財

建築年：明治 37(1904)年 木骨石造

札幌メソジスト教会の三代目礼拝堂として建てられました。建物全体は、札幌軟石の風格と、青い屋根の塔のアクセントとが、中世ヨーロッパのロマネスク風デザイン特有のやさしさとぬくもりを感じさせます。一方、正面の円いステンドグラスや尖った形のアーチ窓にゴシック風の端正なデザインが見られます。

3. カトリック北一条教会司祭館カテドラルホール



札幌景観資産

建築年：明治 31(1898)年 石造

札幌軟石を使用した石造の壁に瓦屋根を組み合わせたユニークな建物で、寄棟2階建てのシンプルな外観は、質素ながらも力強さを感じさせ、その外観はほぼ当時のままで明治の歴史を今に伝えています。現在は教会のホールとして活用されています。

4. カトリック北一条教会聖堂



札幌景観資産
建築年：大正 5(1916)年 木造一部石造

ラフォン神父によって建設されたと伝えられています。聖堂は、小ぶりながらもロマネスク風の中央の塔や左右のゴシック風の小尖塔、外壁や窓には連続した装飾が施され、その外観は中世ヨーロッパの教会の雰囲気漂わせています。

5. 北海湯



札幌景観資産
建築年：明治末期～大正初期 レンガ造

ななめ通界隈に位置する赤れんがの銭湯です。れんが造の公衆浴場は全国的にも珍しいとされています。三角屋根のシンプルな外観に、正面上部のクシ形アーチや白色タイルの装飾、金文字の看板が特徴的で、明治・大正期のモダンなデザインを感じることができます。

6. 高城商店



札幌景観資産
建築年：昭和 7(1932)年 木造・石造（倉庫）

ななめ通界隈を歩くと見えてくるツタに覆われた商店です。堂々とした風格のある木造で、時を重ねた酒屋独特の看板が昭和の時代を感じさせます。80年以上経っても当時のままの下見板張りの木造の商店がそのまま保存され、独特の雰囲気を醸し出しています。

7. サッポロビール博物館



北海道遺産
建築年：明治 23(1890)年 レンガ造

旧札幌製糖会社工場。明治 38(1905)年に札幌麦酒会社の所有となり、ビール工場に改修されました。赤レンガの重厚な外観が明治の時代を伝えています。昭和 62(1987)年に日本で唯一のビール博物館としてオープンしました。

8. 北海道鉄道技術館



北海道遺産
建築年：明治 43(1910)年 レンガ造

苗穂工場に建てられたレンガ造りの倉庫を展示資料館として内部を改装した建物で、鉄道に関する数多くの資料が展示されています。また、技術館の建物は工場内最古で、「さっぽろ・ふるさと文化百選」に選定されています。

9. 福山醸造株式会社



北海道遺産
建築年：大正 7(1918)年 レンガ造

福山醸造の前身である福山商店は明治 24(1891)年に創業し、大正 7(1918)年に広い敷地と伏流水に恵まれていた苗穂に第二工場を設立しました。11棟の工場は現在も使われています。

10. 雪印メグミルク 酪農と乳の歴史館



北海道遺産
建築年：昭和 52(1977)年

雪印メグミルクの前身である北海道製酪販売組合の創立 50 周年を記念し、昭和 52(1977)年 9月に雪印史料館として落成しました。製造過程を説明するミニチュア模型や創業当時から製造機器などが多数展示されています。